

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 11 日現在

機関番号：34504

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26370346

研究課題名(和文)クロスメディア・ヘミングウェイ ニューディールの政治文化研究

研究課題名(英文)Cross Media Hemingway: The Cultural Politics in New Deal America

研究代表者

塚田 幸光 (TSUKADA, Yukihiro)

関西学院大学・法学部・教授

研究者番号：40513908

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、ヘミングウェイ文学とニューディール政治文化の交差を、メディア的視座から探る試みである。

ニューディール政策において、メディアは政治的「弾丸」であり、文化は「兵站」であった。FSA写真やOWI戦時映画の関係と同様、メディア政策はニューディール・プロパガンダの政治的特徴であり、不可欠な要素であった。この意味において、本研究では、メディア・イメージがヘミングウェイ文学に再想像し、変容するインターテクスチュアリティを明らかにし、彼のテキストとその時代におけるクロスメディアの可能性を考察した。

研究成果の概要(英文)： In this research, I attempted to throw light on the relationship between Ernest Hemingway's literature and cultural politics, specifically focusing on the media variation through the New Deal policy.

In the wartime, media were the political "bullets," and culture was the "military logistics." Like the relation between FSA photography and OWI films, media policy were its political characteristic of New Deal propaganda and indispensable factor. In this sense, I clarified the intertextuality in which these media images were reimagined and transformed into the Hemingway's literature. And I explored the possibility of the "cross-media" relation in Hemingway's texts and his era.

研究分野：英米・英語圏文学

キーワード：クロスメディア アメリカ 映画 表象文化 政治文化 ヘミングウェイ フォークナー ニューディール

1. 研究開始当初の背景

ヘミングウェイは、アメリカ/民主主義を代表/表象する文化的アイコンでありながら、極めて複雑な「政治的」立場を取る作家である。第二回全米作家会議における演説「ファシズムの嘘」に象徴されるように、スペイン内乱に参加後の1937年以来、彼は左翼的思想へと歩み寄っているからである。37年の『持つと持たぬと』、40年の『誰が為に鐘は鳴る』、そしてキューバにおける「国民文学」『老人と海』に至るまで、彼の文学と左翼思想との関わりを示す作品は多い。54年にノーベル文学賞を受賞した「アメリカの国民作家」が、「キューバの国民作家」であるという事実からも、その複雑な立場を見ることが出来る。

だが、ヘミングウェイと政治との関わりについては、十分な議論が行われているとは言い難い。民主主義やファシズムの問題は作品論や作家論の一部として表層的に扱われ、時代のイデオロギーと作品とを結びつける有機的な批評に結実していないのだ。とりわけ、彼の政治的「転向」(全米作家会議)以前のスペイン内戦/体験に関しては、批評の空白地帯と言えるだろう。また、ニューディールのメディア戦略との関わりについても研究は皆無に近い。「文学、メディア、政治学」という分野の違いが、研究の学際性を削いでいるのだ。その好例が、ニューディールの「文化」研究だろう。ニューディールはダムや道路など国家事業的な側面が強調されがちだが、「文化」との関わりは深い。ロイ・ストライカー主導によるFSA(農村安定局)のドキュメンタリー写真、OWI(戦時情報局)のプロパガンダ映画、そして地誌編纂や音楽収集に至る文化への関与は、国家による「文化のデータベース化」の別名である。芸術は政治に接続され、その政治的「芸術」は、プロパガンダの役割を担う。このような文化/芸術と政治の関係こそ、ニューディールの見えざる顔と言える

のだ。そして、30年代後半とは、FSA写真が図らずもニューディールの全体主義を映し出し、左派系ドキュメンタリー映画が開花する「政治とメディア」の時代である。スペイン内戦に際し、北米新聞連盟(NANA通信)の特派員として現地入りしたヘミングウェイが積極的に関与したのは、共産主義者/映画監督ヨリス・イヴェンスとの映画制作ではなかったか。NANA通信の記事とドキュメンタリー映画『スペインの大地』(1937年)の「同時性」などは、ヘミングウェイ研究の盲点であり、彼の文学の「政治性」を逆照射する貴重な証言となる。

ヘミングウェイとメディアの関係に「政治」を見る。NANA通信と『スペインの大地』が映し出す「スペイン」は、アルカイックな農村と連帯を描く左派系ドキュメンタリー映画の延長線上にあり、それはニューディール/FSAのドキュメンタリー写真の風景と二重写しとなる。左派系ドキュメンタリー映画が、(ナショナルな)ニューディールのプロパガンダと近似のテキストになる皮肉。このような政治とメディア、そして文学の結びつきは、従来の文学研究では軽視され、殆ど考察されていないのが現状である。

以上の背景により、ヘミングウェイと政治、そしてメディアの複層的な関係を考察する必要が生じた。

2. 研究の目的

本研究は、ヘミングウェイ文学とニューディールの政治文化との交点をメディア的視座から探る独自のものである。本研究は、科研費「基盤研究(C)」(2011~2013年度)で行ったヘミングウェイ・コレクション(ケネディ図書館)の実証的研究を補完し、より広い視座へと研究を敷衍するものである。

ニューディールのFSA写真やOWIのプロパガンダ映像、左派系ドキュメンタリー映画などの視覚・映像メディア資料、そしてジャーナル記事や関係者のレターなどの文献資料を融合、交差させ、ヘミングウェイ文学研究

における「周縁的」な要素から、その本質を逆照射する点に特徴がある。

この課題に取り組むには、ケネディ図書館、議会図書館、公文書館における現地調査が不可欠である。この3カ所での調査を連動させることで、高い効果を生むことが期待できる。

アメリカ・ボストンのケネディ図書館 (John F. Kennedy Presidential Library)、ヘミングウェイ・コレクション所蔵の資料調査では、マニュスクリプト、タイプスクリプト、ジャーナル、レター等、100 を超えるボックスに分類されたヘミングウェイの関連資料を分析、調査する。ニューディール期の資料 (1930 年代から 40 年代) に特化し、ヘミングウェイとメディア、そして政治との交点を探る。ヘミングウェイの政治的変貌の軌跡をこれらの資料から見出すことが狙いである。

アメリカ合衆国議会図書館 (The Library of Congress)、ならびにアメリカ合衆国公文書館 (National Archives) の映像資料の調査も重要である。議会図書館の写真版画部門 (Prints and Photograph Division) のドキュメンタリー写真コレクション (FSA・OWI Collection) はウェブ上で閲覧可能で、写真はパブリック・ドメインに属する。だが、映像資料に関しては、閲覧の必要がある (特に公文書館がプロパガンダ映画・ドキュメンタリー映画の多くを保管している。閲覧に制限はない)。FSA 写真家の撮った農村風景は、『スペインの大地』の風景に限りなく近い。ニューディールのメディア戦略と左派系ドキュメンタリーの接近 / 近似と、プロパガンダ映画との関わりを再考する。

ヘミングウェイ文学とニューディール政治文化の交点を探る試みは、複数分野を横断する研究ゆえに、緒に就いたばかりである。本研究は、ケネディ図書館、議会図書館、公文書館での実証研究を踏まえ、ヘミングウェイ、ニューディール、メディアとの政治的・

文化的交差を探るオリジナルな研究である。この成果は、ヘミングウェイ研究の進展にとどまらず、ドキュメンタリー研究やニューディール・メディア研究に再考を促すと思われる。

3. 研究の方法

主たる調査対象は、ボストンのケネディ図書館にあるヘミングウェイ関連資料 (「ヘミングウェイ・コレクション」)、アメリカ合衆国議会図書館ならびに公文書館のプロパガンダ映画・ドキュメンタリー映画である。

ケネディ図書館での調査はヘミングウェイの「声」を辿る実証研究であり、議会図書館、公文書館での調査は、ニューディールのメディア戦略を再検討する複合的な調査である。これら3カ所の調査を踏まえ、ヘミングウェイ研究とニューディール / メディア研究を交差させ、その政治的な痕跡 / 表象を見ることが狙いである。本研究は、ジャーナルやドキュメンタリーの政治表象研究を補完し、資料の発掘により新解釈に繋がる可能性も有する。

議会図書館モーション・ピクチャー部門のカード・カタログ並びに映像資料と、公文書館アーカイヴにある OSS (戦略事務局) の映像資料等の調査は重要である。議会図書館の FSA 写真が全てデータベース化されているのとは異なり、公文書館のデータベース (NAIL) ではその全容を知ることはできない。現地での閲覧と資料収集が不可欠である。

1 年目は、OWI/OSS 関連のプロパガンダ資料の調査に集中した (OSS の資料は、カタログだけでも膨大な数に及ぶ。未整理状態ゆえ、過去に作成された部分的なカタログを頼りに、手探りの調査となる)。議会図書館、公文書館の資料を軸に、1930 年代のプロパガンダ、ドキュメンタリーが照射する表象の政治性を分析した。

2 年目・3 年目にあたる 2015 年から 2016 年にかけて、ケネディ図書館、議会図書館、

公文書館での調査は、サバティカルでのハーバード大学滞在によって、より効率的に実行できた。ボストン・ケネディ図書館は、ハーバードのシャトルで日常的に行くことができ、ハーバードの図書館には世界屈指のデータベースがある。さらに、ワシントンやニューヨークへの移動も容易であり、最高の研究環境の中で過ごすことができた。渡米中は、ニューディールとヘミングウェイ文学との政治的相関図を整理した。30年代の左派系ドキュメンタリー映画／写真と左派系文学の隆盛、共産主義の変貌、全体主義としてのニューディール等、激動の時代におけるヘミングウェイ文学の付置とメディアの役割を再考察した。

3年目の帰国後は、40年代におけるヘミングウェイと政治性との関係を再考した。40年とは、彼がキューバへ移住を決め、政治色を強めた年である。大戦前夜、ローズベルトのメディア政策が右傾化する中で、ヘミングウェイの文学は如何に変貌を遂げ、政治性を強めたのかを考察した。

4. 研究成果

ヘミングウェイとクロスメディアの政治性に関する研究は、ジャンル横断・越境する研究である。それゆえ、ヘミングウェイ研究を軸に、幅広いメディア研究へと研究を展開させた。この成果は、3年間で2編の投稿論文、6冊（共著・編著）の図書、9件の国内外の学会発表に結実している。

ヘミングウェイ研究に関しては、関西学院大学紀要『外国語外国文化研究』に寄稿した論文「フリークス・アメリカ-ヘミングウェイ、ロン・チャニー、身体欠損-」、国際ヘミングウェイ協会での学会発表 “Hemingway and Cross-Media: Newsreel, Greco-Turkish War, and “On the Quai at Smyrna”、フォークナー & ヘミングウェイ会議での学会発表 “Framing Femme Fatale: Gender and Ideology in *To Have and Have Not*” がある。

特に、国際ヘミングウェイ協会で発表したクロスメディア論は、本研究にダイレクトに結びつく成果である。ニューズリール、ジャーナル、そして短編というメディアが、ギリシア・トルコ戦争を映し出し、ヘミングウェイ文学に接続する。メディアと文学の影響関係を辿り、同時代の政治学を考察した。

ニューディール研究に関しては、九州アメリカ文学学会シンポジウムで発表した「大衆とフォト・テキスト-ニューディール、FSA、スタインベック」、松籟社『ウィリアム・フォークナーと老いの表象』に寄稿した論文「グッバイ、ローザ-フォークナー、ニューディール、「老い」の感染-」がある。ニューディール文化政策とメディア、そして文学（フォークナーやスタインベック等）との交差を軸に文化の政治学を論じた。

文学・文化論に関しては、日本英文学会シンポジウムで発表した「ボディビル世紀末—Eugen Sandow と初期映画の身体論—」、米国サウスイーストミズーリ州立大学フォークナー研究所での BioKyowa Award 受賞記念講演 “William Faulkner, Hollywood, and the Gothic South” がある。特に、BioKyowa Award 受賞研究者として、フォークナー研究所に招かれ、プロツキー・コレクションの調査を行えたことは意義深かった。プロツキー・コレクションとは、フォークナーとハリウッドとの繋がりを示すクロスメディア資料であり、文学研究の周縁で忘れ去られた資料だからである。

最後に、映像文化研究に関しては、論創社『アメリカ映画のイデオロギー』に寄稿した「ニューシネマ・ターザン—フランク・ペリー『泳ぐひと』と映像の性／政治学—」、日本映画学会大会プロシーディングス『Polluted but Beautiful—アトミック・ランドスケープの文化学—』（日本映画学会シンポジウムと同タイトル）、韓国文学環境学会で発表した “Danchi and Terrorism:

Imaging the Nuclear Landscape in *The Man Who Stole the Sun*”、ミネルヴァ書房『映画とテクノロジー』に寄稿した「シネマティック・ロボット—テクノロジー、暴力、『時計じかけのオレンジ』—」、明石書店『映画で読み解く現代アメリカ』に寄稿した「ゲイ・カウボーイと自閉するアメリカー『ブローックバック・マウンテン』—」、米国比較文学会で発表した“Catastrophic Tokyo: Re-thinking the Nuclear Walking Dead in Japanese Comics”、大学教育出版『アメリカ観の変遷』に寄稿した「プロダクション・コードの性/政治学—ジェンダー、幽閉、『サンセット大通り』—」、関西学院大学出版会『島国文化と異文化遭遇』に寄稿した「ターザン、南海へ行く—エキゾチック・ハリウッドの政治学—」、日本英文学会中部支部大会シンポジウムで発表した「イメージの異境—フレーム、ロード、『パリ、テキサス』—」がある。これらの映像文化論は、時代や場所は異なれど、ニューディールから冷戦、そして現代へと至る広義の「アメリカ」の性/政治学に接続し、クロスメディアの文化学を映し出す。

このように、ヘミングウェイ文学、ニューディール、映像文化など、多角的な視座から、クロスメディアの文化学/政治学の考察を行った。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計2件)

塚田幸光「フリークス・アメリカーヘミングウェイ、ロン・チャニー、身体欠損—」、関西学院大学法学部外国語研究室『外国語外国文化研究』XVII, 査読なし, 2017年, PP.1-23.

塚田幸光「Polluted but Beautiful—アトミック・ランドスケープの文化学—」、日本映画学会『日本映画学会第12回大会プロシーディングス』, 査読なし, 2017年, PP.102-111

(<http://jscs.h.kyoto-u.ac.jp>).

〔学会発表〕(計9件)

塚田幸光「Polluted but Beautiful—アトミック・ランドスケープの文化学—」、日本映画学会第12回大会シンポジウム「汚の映画史」(大阪大学, 大阪府吹田市), 2016.11.26.

Yukihiro TSUKADA, “Danchi and Terrorism: Imaging the Nuclear Landscape in *The Man Who Stole the Sun* (1979),” The Association for the Study of Literature and Environment in Korea (ASLE-Korea), “International Symposium on Literature and Environment of East Asia” (Dongguk University, Korea) 2016.11.6.

Yukihiro TSUKADA, “Framing Femme Fatale: Gender and Ideology in *To Have and Have Not*,” Faulkner and Hemingway Conference, “Faulkner and Hemingway in Hollywood II” (Southeast Missouri State University, USA) 2016.10.22.

Yukihiro TSUKADA, “Hemingway and Cross-Media: Newsreel, Greco-Turkish War, and “On the Quai at Smyrna”,” XVII Biennial International Ernest Hemingway Conference, “Panel: Smyrna & Hemingway’s Political Development” (Dominican University, USA) 2016.7.22.

塚田幸光「ボディビル世紀末—Eugen Sandowと初期映画の身体論—」、日本英文学会第88回大会シンポジウム「メディア、帝国、19世紀末アメリカ」(京都大学, 京都府京都市), 2016年5月29日

塚田幸光「大衆とフォト・テキスト—ニューディール、FSA、スタインベッカー—」、九州アメリカ文学会第62回大会シンポジウム「アメリカ大衆文学とモダニズム」(九州大学伊都キャンパス, 福岡県福岡市), 2016年5月8日

Yukihiro TSUKADA, “Catastrophic Tokyo: Re-thinking the Nuclear Walking Dead in Japanese Comics,” American Comparative Literature Association, “Ecocriticism in Japan: Season 2” (Harvard University, USA) 2016.3.19.

Yukihiro TSUKADA, “William Faulkner, Hollywood, and the Gothic South,” BioKyowa Award Lecture (The Center for

Faulkner Studies, Southeast Missouri State University, USA) 2015.11.11.

塚田幸光「イメージの異境-フレーム、ロード、『パリ、テキサス』-」, 日本英文学会中部支部第 66 回大会シンポジウム「路(みち)と異界のアメリカ-ロード・ナラティブと他者」(中京大学, 愛知県名古屋市), 2014 年 10 月 18 日

〔図書〕(計 6 件)

塚田幸光「ニューシネマ・ターザン-フランク・ペリー『泳ぐひと』と映像の性/政治学-」細谷等・中尾信一・村上東編著『アメリカ映画のイデオロギー 視覚と娯楽の政治学』論創社, 2016 年, PP.300-325. 総 327 頁

塚田幸光「グッバイ、ローザ-フォークナー、ニューディール、「古い」の感染-」, 金澤哲編著『ウィリアム・フォークナーと老いの表象』松籟社, 2016 年, PP.99-130. 総 288 頁

塚田幸光「シネマティック・ロボットミューテクノロジ-、暴力、『時計じかけのオレンジ』-」, 塚田幸光編著『映画とテクノロジ-』ミネルヴァ書房, 2015 年, PP.123-147. 総 336 頁

塚田幸光「ゲイ・カウボーイと自閉するアメリカ-『ブローックバック・マウンテン』-」, 越智道雄監修、小澤奈美恵・塩谷幸子編著『映画で読み解く現代アメリカオバマの時代』明石書店, 2015 年, PP.160-173. 総 312 頁

塚田幸光「プロダクション・コードの性/政治学(ポリティクス)-ジェンダー、幽閉、『サンセット大通り』-」, 杉田米行編『アメリカ観の変遷 上巻【人文系】』大学教育出版, 2014 年, PP.135-152. 総 155 頁

塚田幸光「ターザン、南海へ行く-エキゾチック・ハリウッドの政治学-」, 森田雅也編『島国文化と異文化遭遇 海洋世界が育んだ孤立と共生』関西学院大学出版会, 2015 年, PP.57-75 頁 総 247 頁

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称:
発明者:

権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

取得状況(計 0 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年月日:
国内外の別:

〔その他〕
ホームページ等
http://www.kwansei.ac.jp/s_law/s_law_000007.html
(関西学院大学法学部 塚田幸光)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

塚田 幸光 (TSUKADA, Yukihiro)
関西学院大学・法学部・教授
研究者番号: 40513908

(2) 研究分担者

()

研究者番号:

(3) 連携研究者

()

研究者番号:

(4) 研究協力者

()